

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成19年12月1日発行 第8巻 第2号(年2回発行;通巻13号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市中種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

第8回オープンフォーラム 「大学と国際協力機関との組織 連携の強化—大学国際化戦略の 一環として—」を開催

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、10月29、30日に第8回オープンフォーラムを全国の先進4大学の関係教職員と文部科学省、国際協力銀行(JBIC)、国際協力機構(JICA)の関係者を招へいして名古屋大学野依記念学術交流館で開催しました。今回のオープンフォーラムでは、「大学と国際協力機関との組織連携の強化—大学国際化戦略の一環として—」のテーマの下、大学が独法化後、国際協力事業を受託するに当たり抱えている問題点とその克服の方法について、関係者による発表とパネルディスカッションが行われました。

初日の冒頭、山内章ICCAEセンター長、山本進一研究・国際交流関係担当理事の挨拶の後、杉本充邦

ICCAE准教授から国際協力事業受託についての名古屋大学の組織、制度・規程上の問題とその改善のための提案を含んだ問題提起が行なわれました。次いで、国際協力事業を実施している大学の代表者による「大学による国際協力事業実施上の問題点とその解決に向けて(事例報告)」に関する講演が行なわれました。各講演のタイトルと報告者名は「JICAとの連携融合プロジェクト」(長澤秀行帯広畜産大学理事)、「修士学位授与を目的としたJICA長期研修『持続的農村開発コース』」(16ヶ月)(弦間洋筑波大学教授)、「草の根技術協力事業『ベトナム中部・自然災害常襲地での暮らしと安全の向上支援』」(田中樹京都大学准教授)、「受託型技術協力プロジェクト『インドネシア国ガジャマダ大学産学地連携総合計画』」(糸井龍一九州大学教授)でした。

2日目は、梅澤敦文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長、五十嵐禎三政策研究大学院大学教授、大金正知国際協力銀行プロジェクト開発部次長、村上正博国際協力機構国内事業部長から「文部科学省及び国際協力機関から見た大学との連携強化のあり方」についての発表と、当日の発表者からの3名に名古屋大学の2名を加えたパネリストによる「国際協力事業実施促進のための大学体制整備について」に関するパネルディスカッションが行なわれました。

今回のオープンフォーラムでは、国立大学法人化後、教員個人が国際協力事業に参画していた従来の体制から、大学組織の本体事業として国際開発協力事業を受託する体制に移行すべく、関係規程の整備、国際担当部署の設置や職員の配置、研究者情報データベースの整備など学内の体制の整備に努めている各大学の現状が確認されました。他方、2日間の議論を通じ、公募・公示情報の収集、教員間の協力体制、受託した経費の使途、間接経費の配分、事業実施のための資金の立替え、事業受託のインセンティブ、事業に参加する教員の業績評価、成果品の著作権の所在など、整備すべき課題が明らかになりました。また、国際協力活動を活発化することによって増大する教員への負担を軽減するためには、教員と事務職員の分業体制をより効率的にする必要があるとの指摘がありました。

今回のオープンフォーラムを受け、ICCAEは、学内の国際交流協力推進本部に置かれている国際開発協力部門の下に、ワーキンググループの設置を提案し、中期目標・中期計画、国際化推進プラン(2005年12月発表)に掲げられている目標とアクション・プランの具体化に向けて、提言を行なってゆく予定です。

(杉本充邦)



第8回オープンフォーラム